

自家発955名、可搬形564名

「専門技術者」講習・試験、令和4年度の合格者を決定

内発協はこのほど、12月2日に開催された自家用発電設備専門技術者審査委員会での審査結果に基づき、「令和4年度専門技術者講習・試験」の合格者が決定されたと発表しました。新規合格者は、自家用発電設備専門技術者（以下、自家発専門技術者）が受験者1,067名のうち955名。一方、可搬形発電設備専門技術者（以下、可搬形専門技術者）は受験者591名のうち564名。合格者は、合計1,519名となりました。

受験者数及び合格者数の増減を前年度実績と比較すると、自家発専門技術者は受験者数が3%減、合格者数は微減。可搬形専門技術者については受験者数が17%減少し、合格者数も18%の減少となりました。新規合格者と併せて、科目別合格者、業務区分追加合格者も決定されました。今後のスケジュールについては12月20日以降、受験者全員に合否結果通知書を発送し、合格者に対し資格証を交付する予定です。

新規合格者の業務区分

自家発専門技術者の新規合格者が取得した「業務区分」の組み合わせをみると、装置部門（S）・据付工事部門（K）・保全部門（M）の全三部門のうち、「M」の一部門のみを取得した者が404名（42%）と最も多くを占めました。次いで「K・M」の二部門を取得した者が306名（32%）。続いて「S・K・M」の三部門を取得した者が137名（14%）の順。前年度と順位に変動はなく、割合については「M」のみが前年度比2%増、「K・M」が3%減、「S・K・M」3%減でした。

（図1参照）

一方、可搬形専門技術者については、据付工事部門（K）と保全部門（M）の業務区分となります。

業務区分の組み合わせは7通り。

1. 装置部門（S）・据付工事部門（K）
・保全部門（M）
2. 装置部門（S）・据付工事部門（K）
3. 装置部門（S）・保全部門（M）
4. 据付工事部門（K）・保全部門（M）
5. 装置部門（S）
6. 据付工事部門（K）
7. 保全部門（M）

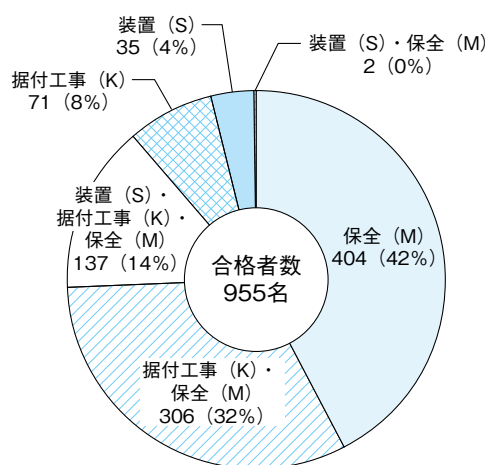


図1 自家発新規合格者が取得した業務区分の組み合わせ

新規合格者の業種別

新規合格者を「業種別」にみると、自家発専門技術者においては「保守・修理業」の325名（34%）、「電気工事業」の224名（24%）、「製造業」の146名（15%）の順。前年度と順位に変動はなく、割合に

ついて「保守・修理業」が前年度より1%増、「電気工事業」は3%減、「製造業」は3%増でした。

(図2参照)

一方、可搬形専門技術者においては「土木工事業」の306名(54%)が圧倒的に多く、「建築工事業」の93名(17%)、「電気工事業」の37名(7%)と続きました。

「賃貸(リース・レンタル)業」は前年度比23名減少の29名となり、割合も3%減となりました。

(図3参照)

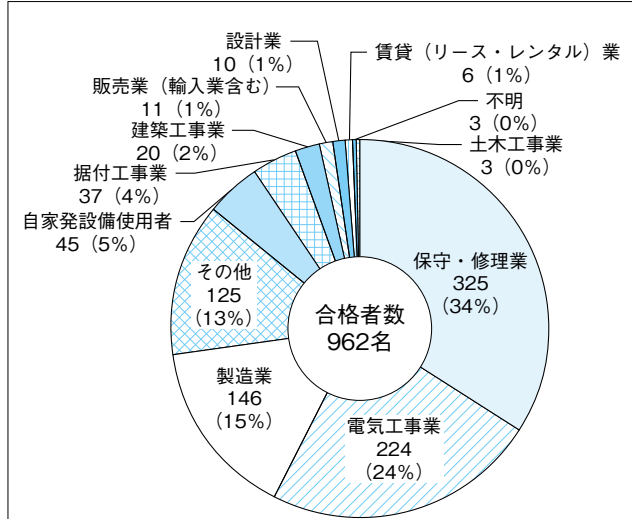


図2 業種別の自家発新規合格者数

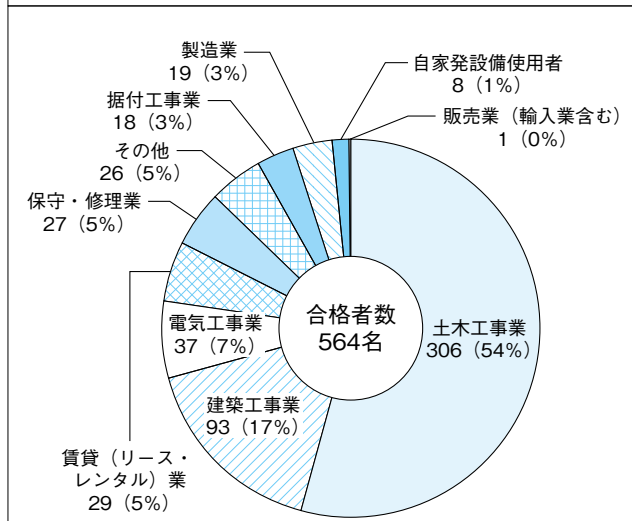


図3 業種別の可搬形新規合格者数

30代が3%減となり40代と30代の順位が入れ替わりま

した。20代は1%減、また50代以上は6%増でした。

(図4参照)

一方、可搬形専門技術者においては、40代の232名(41%)、30代の161名(29%)、50代以上の100名(18%)

の順。順位の変動は無く、割合は40代が変わらず、30代が1%増、50代以上も4%増、20代は1%減でした。

合格者の平均年齢は42.2歳(前年度は41.9歳)でした。

(図5参照)

自家用・可搬形を合わせた最年少の合格者は21歳、最年長は75歳でした。

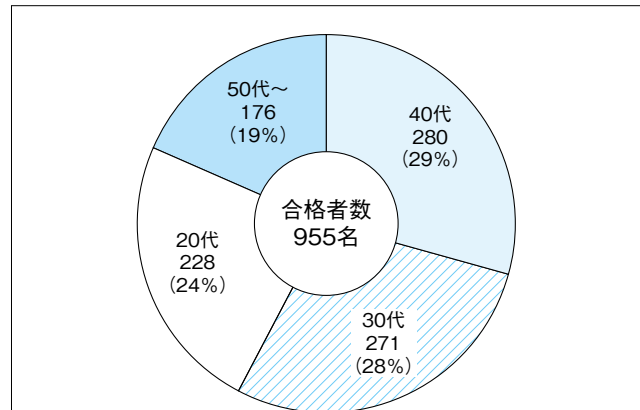


図4 年代別の自家発新規合格者数

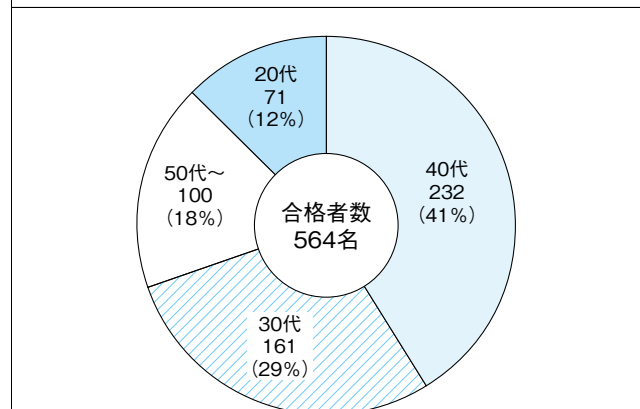


図5 年代別の可搬形新規合格者数

新規合格者の年代別

新規合格者を「年代別」にみると、自家発専門技術者では40代の280名(29%)、30代の271名(28%)、20代の228名(24%)の順でした。割合は40代が2%減、

新規合格者の地区別

新規合格者を受験会場ごとに集計した「地区別」をみると、自家発専門技術者においては東京地区の297名(31%)、大阪地区の184名(19%)、福岡地区の101名(11%)でした。福岡地区の順位が上がりました。

(図6参照)

一方、可搬形専門技術者についても合格者は東京地区の157名（28％）が最も多く、次いで名古屋地区の96名（17％）、大阪地区の95名（17％）の順でした。名古屋地区と大阪地区の順位が入れ替わりました。

（図7参照）

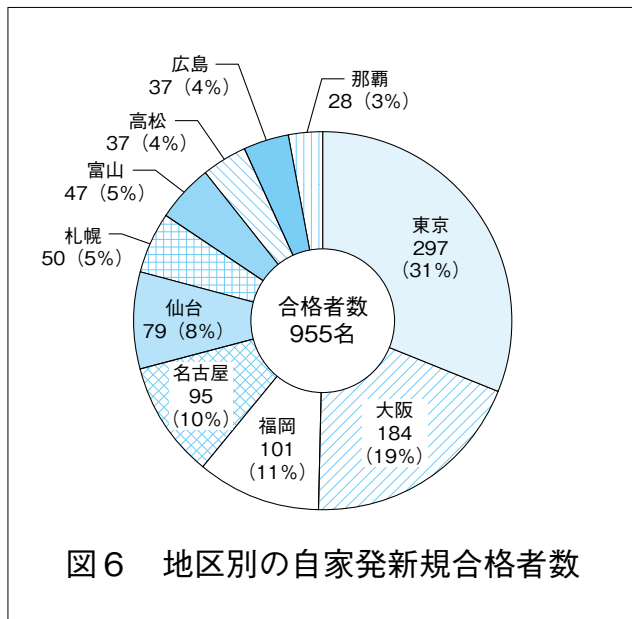


図6 地区別の自家発新規合格者数

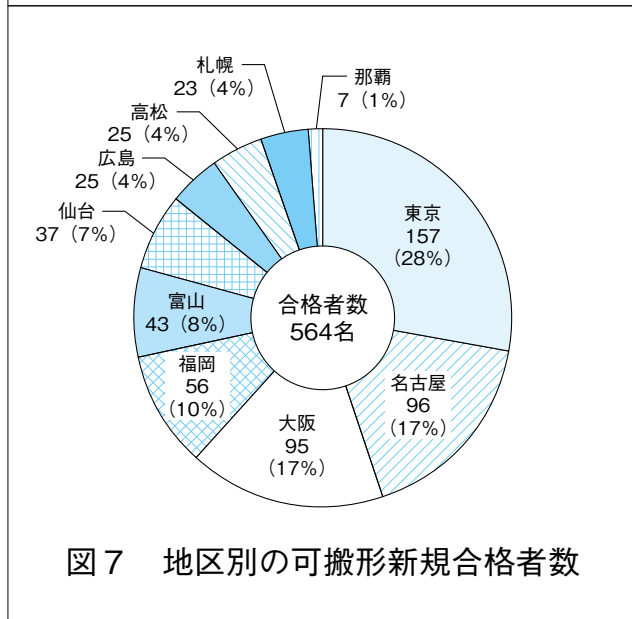


図7 地区別の可搬形新規合格者数

科目別合格者並びに 業務区分追加合格者

新規講習・試験の開催とあわせて実施された「科目別受験」については70名が合格しました。

「科目別合格者」とは、受験科目の一部が合格点

に達しなかったため、その年度に合格できなかった者が次年度に合格点に達しなかった科目を受験し、合格した者です。

合格者が取得した業務区分の組み合わせをみると「K・M」の二部門が30名（43％）と最も多くを占めました。

（図8参照）

「業務区分追加受験」については37名が合格しました。

「業務区分追加合格者」とは、専門技術資格保有者が新たな業務区分を追加する目的で受験し、合格した者です。

取得した業務区分をみると、「K」の一部のみを取得した者が21名（57％）と最も多くを占めました。

（図9参照）

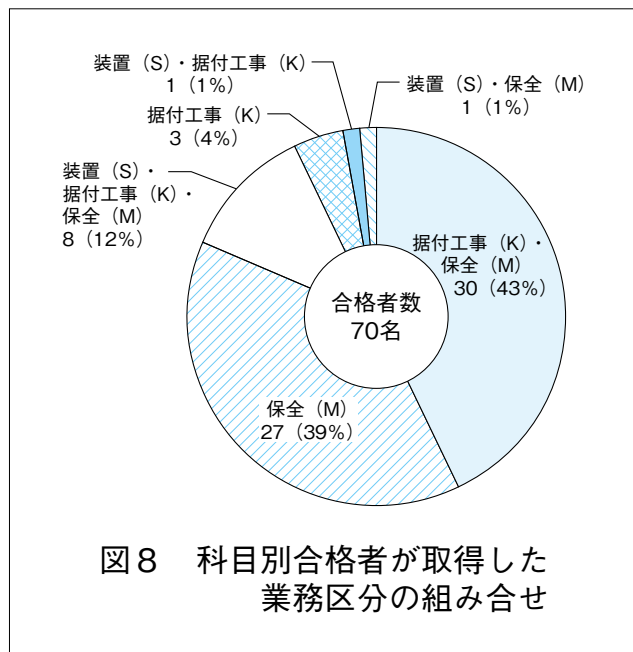


図8 科目別合格者が取得した業務区分の組み合わせ

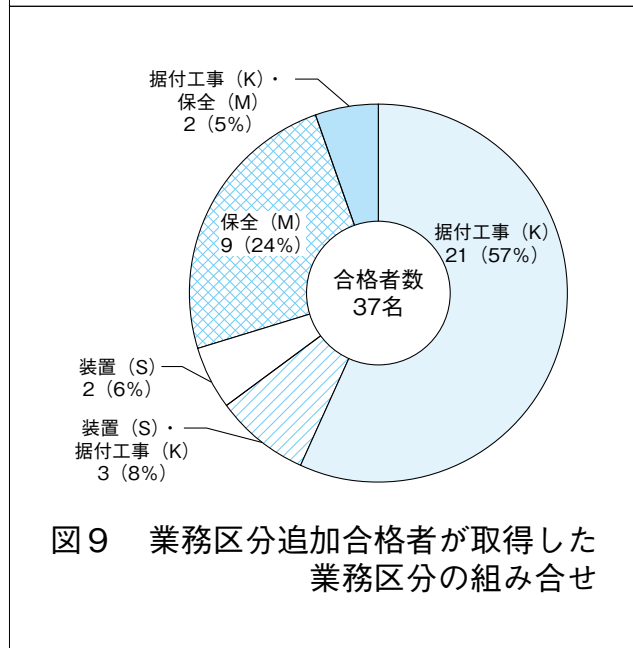


図9 業務区分追加合格者が取得した業務区分の組み合わせ